

平成 31 年度 (2019 年度)

金沢大学大学院法務研究科

入学試験問題

刑 法

D 日程入試

(注意)

1. 問題冊子 (表紙を含む) は 2 枚です。
2. 問題冊子は指示があるまで開かないで下さい。
3. 問題冊子と下書き用紙は持ち帰って下さい。
4. 解答は、鉛筆、シャープペンシル、ペン、ボールペンのいずれで記入しても構いません。

平成 31 年度（2019 年度）金沢大学大学院法務研究科入学試験問題

試験科目	刑	法
------	---	---

次の【事実】を読んで、【設問】に答えなさい。

【事実】

Xは、自己所有の土地をAに売却すべく、Aとの間で同土地の売買契約を締結し、売買代金2000万円を受領したが、移転登記手続が間に合わなかったため、同土地の登記簿上の名義人はXのままであった。

その翌日、不動産業者Yは、X・A間で売買契約が締結されたことを知らないまま、その登記簿上の表示から本件土地の所有者がXであると信じ、Xに対し、「本件土地を2500万円で買いたい。」と申し入れた。Xは、少しでも高く売却したほうが得策だと考え、Aと売買契約を締結し売買代金も支払い済であることを秘したまま、Yとの間で、本件土地につき、売買契約を締結して代金2500万円を受け取るとともに、Yへの所有権移転登記を完了した。

【設問1】

本件土地をYに売却したXの行為につき、Aとの関係で、Xに横領罪が成立するかどうか検討しなさい。

なお、本設問を解答するに当っては

「横領罪における占有の意義」

「委託信任関係」

の文言を必ず使用すること。

【設問2】

また、Aとの間で売買契約を締結し売買代金も決済済みである旨を秘したまま、Yとの間で売買契約を締結し登記を移転したXの行為につき、Yとの関係で、Xに詐欺罪が成立するかどうか検討しなさい。